



子どもの権利の視点で 学童保育の充実を



森元茂利 さん

(福岡県学童保育連絡協議会事務局長)

私は、直方市の委託事業である13の学童クラブ(放課後児童クラブ)を担当しています。福岡県高齢者福祉生活協同組合(福祉生協)の職員でもあります。

現在、宗像市に住んでいますが、学童保育との出会いはおよそ30年前、子どもが学童保育を利用することをきっかけに、保護者会の活動や運営にも関わりました。

お話ししたい1点目は、学童保育の制度が大きく変化の時代を迎えているということです。2015年に「子ども・子育て支援法」が施行されましたが、この法律によって、ようやく学童保育に光がさしはじめたかなという状況になりました。学童保育は60年近い歴史を持っていますが、制度としては非常に遅れているしくみです。

小学生が放課後の生活を安心・安全におくれるようにと、保護者の皆さんが本当にがんばってつくってきた歴史があるのですが、国の制度がなかなかそれに追いつきませんでした。それが約20年前に、子どもの権利として児童福祉法第6条によりようやく盛りこむことができ、今回、「子ども・子育て支援法」の中に位置づけられました。

児童福祉法では「学童保育」という言葉は使われず、「放課後児童健全育成事業」という、ちょっと道徳的な雰囲気がありますが、設備・運営の基準について厚生労働省の省令が発せられ、同時に各市町村が条例をつくるというしくみになりました。今ほとんど、学校の空き教室等を使っていますが、それができない場合は民間の施設を使っています。その基準として、子ども一人あたり1.65平方メートル、畳1畳分です。しかしそれが守られているかというところではありません。事業実施主体の市町村がなかなか追いついていないのです。

もう一つ大事な基準は、学童クラブの1支援単位につ

いて支援員を複数配置することになったのですが、支援員の処遇はまだまだ厳しいものがあります。

2015年4月に「放課後児童クラブ運営指針」が発せられたのですが、これは画期的です。総則には、「放課後児童健全育成事業の運営主体及び放課後児童クラブは、児童の権利に関する条約の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して育成支援を推進することに努めなければならない」と、明確に書いてあります。

子どもの権利条約が国の事業の中に盛りこまれたのは画期的であり、これも、学童保育に関わる保護者や支援員の皆さんが長年努力してきた結果だと思います。

子どもの権利条約の特に31条と15条が大事だと思います。31条は子どもたちの遊びや余暇の権利、15条は子どもたちが会議をして話しあって自分たちの意思を決める権利(集会・結社の自由)です。ですから、学童保育の運営にあたっては、運営指針に盛りこまれた児童の権利を現場で実現していくとくみが必要だと思います。

ただ一方では、この事業には安倍政権のもとですめられている市場開放という流れがあり、営利を目的とした企業がたくさん参入しつつあります。例えばあるカラオケ会社が全国的に動いており、福岡県でもいくつかの自治体で「指定管理」という制度のもとで運営主体として運営するようになりました。

子どもたちのために、保護者、支援員の人たち、地域の皆さんが共同ですすめてきた中へ、新たに企業の論理でやろうという流れが持ちこまれ、厳しいものがありますが、これからも、子どもたちの権利を守る立場でがんばっていきたいと思います。

子どもを戦場に送った 歴史を忘れない

自衛隊の学校介入に
反対する市民の運動

是恒高志 さん

(芸南教育子育て九条の会)



呉市は旧軍港都市です。海軍の町で空襲も受け焼け野原になりました。戦後、「旧軍港都市転換法」により「平和産業港湾産業都市」になりました。海軍用地が民間に払い下げられ、工場地帯ができました。

しかし 1954 年に海上自衛隊呉地方総監部が置かれ、以後、海上自衛隊と「共存共栄」することが市政の方針に入りました。1991 年にペルシャ湾へ掃海艇が出動し、以来、自衛隊の海外出動の拠点となりました。街の中には「海軍コーヒー」とか「海軍カレー」とか、軍港都市を懐かしむ風潮が商品や看板にあふれています。それが観光資源にもなっているのですが、教育に持ちこまれており、大問題になっています。

「呉の教育」はすでに「森友学園」化している！？といえます。運動会や体育祭では軍隊式の行進、卒業式・入学式は全小中学校で戦前の「呉市歌」を斉唱、毎年、自衛隊の第六潜水艇追悼式に呉中央学園の 6 年生が参列、中学校の歴史と公民の教科書は、県内で唯一「育鵬社」版、という状況です。

2 年前に『経済的徴兵制』（布施祐仁著・集英社新書）が発刊され、「種まき広報」ということが指摘されています。自衛隊の志願者が半減しているというので、自衛隊が学校教育に入りこみ、「親しむ」→「知る」→「選ぶ」という流れで自衛隊に親しみ、平和を守る団体だと知らしめ、職業として自衛隊を選ぶようにつなげるため、「総合的な学習の時間」や「体験学習」等を利用して宣伝が行われています。これを「種まき広報」と言っています。

栄養職員と海上自衛隊が共同開発した「海自カレー」というのが給食メニューに取り入れられています。また、南極観測船「しらせ」（もとは自衛隊の艦船）の乗艦体験があり、小学生や保育園児が招待され、敬礼のしかたなどを教えられ、「卒業したらおいで」と言われています。

昨年 12 月には、呉市の校長会で現役自衛官が体験学習のメニューを示し、勧誘しました。その資料には「呉の子供達が小・中学校で 9 年間を過ごす間に、少なくとも 1 回は、海上自衛隊の施設・艦艇を見学したり、海上自衛官と触れ合う機会を持ってもらうことが目標」と書いてありました。これも「種まき広報」です。

現場教職員や新婦人などの声を聞いて、私たち退職教職員と一緒に「子どもと教育を守る市民連絡会」をつくり、校長訪問をしました。

新婦人新聞（2016 年 10 月 16 日号）が「これは禁止です！自衛隊勧誘のアウト項目」という記事を載せています。子どもの権利条約第 38 条は、15 歳未満の子ども

の兵役を控えるよう規定しており、中学生に募集をかけることも、体験学習で誘いをかけることもアウトです。

「海上自衛隊がやっていることはそういうことなんですよ。また、戦時には満蒙開拓義勇団など、学校から戦場へ子どもを送り出した歴史を忘れてはいけません」などと話してきました。

市議会への請願も行いました。

情報公開を求めると、市長部局も教育委員会も、海自カレーも体験学習メニュー提示もスーッと通っていることが明らかになりました。午前中のシンポジウムにもあったように、教育行政は市長部局から独立していなければいけないわけで、市民運動は今、教育の中立性の確保、教育委員会の独立を重点的に要望しています。

お母さんたちの活動の記録をまとめた冊子をロビーの書籍コーナーに置いてあります。『NEVER AGAIN おとなが国のためだと子どもを戦場に送った歴史 自衛隊体験導入反対、呉市民の活動奮闘記』です。非売品ですがカンパとして 1 部 50 円いただきます。いただいたらすべてこの集会にカンパしますのでぜひ買ってください。

呉から来たものですが、皆さんの力でこの集会ぜひ成功させましょう。

高校生の自主活動を育てよう



高津忠之 さん

(山口県高等学校教員)

1970 年代の後半の 5 年間、福岡におりました。

1964 年に全国高校生部落問題研究集会在開催され、その後 1000 人規模の集会をやってきました。「部落」問題は主に西日本固有の問題で、長野県ぐらいまでの高校生を集めてやっていました。

山口県では、1972 年の第 8 回全国高校生部落問題研究集会への参加をきっかけに、73 年春に「山口県高校生交流集会」として始まりました。

その後、部落問題はほぼ終結したということで、高校生部落研は 1996 年から「人権と民主主義を考える高校生の集い」と名前に変えました。山口県高校生交流集会もハイスクール・フォーラム「高校生しゃべり場」として、恋愛問題からスマホまで、高校生が抱える様々な問題をテーマに話し合い取り組んできました。広島平和ゼ

ミナールと交流したり、岩国基地のフィールドワークなどをしてきました。

私も高校生の活動にびっくりして刺激され、平和教育、人権教育を授業に取り入れていきました。

ところで最近、高校生を集めることが難しくなってきました。かつては県下 50 校ぐらい、200 人ぐらいが集まっていましたが、昨年の第 45 回集会は 7 校 51 人でした。参加した生徒は刺激を受けて前向きになって帰るのですが、それがみんなに伝わらないのです。毎年、春分の日に限定していますが、高校生も結構忙しく引率教員もなかなかいない状況です。

フォーラムでは午前中に講師を呼んで話を聞きます。2012 年は安齋育郎さん、2013 年は反原発活動の藤波心さん、2015 年は雨宮処凛さんなど。2017 年は、十数年前にハイスクール・フォーラムの実行委員であった西野旅峰（りょお）さんをお願いしました。1982 年、下関市生まれで高校生と年齢が近いということもあり、生徒たちはよく聞いていました。

紛争地帯など世界中を自転車で旅して、戦争・暴力・貧困に苦しみ、教育を受ける機会を奪われ、時には生命を奪われる、何よりも自分で自分の一生を決められない子どもたちとの交流をリアルに話してくれました。

こういう生徒を育てたことを誇らしく思いました。

山口県高教組の顧問弁護士をしている内山さんも 2014 年のマツダ派遣切り裁判で和解の立役者になった弁護士ですが、この人も集会の参加者で在籍当時から精力的に活動し、私たちの組合も彼に支えられています。

これからも若い人たちを育てていきたいと思います。



保育室ではおりがみ